

AIで加速する知的創造サイクル：NTTデータ「発明発掘支援サービス」

従来の発明発掘における「2つの壁」

R&D現場での「発明の埋没」と作成負担



技術者が多忙やスキル不足により、自らの成果を発明として言語化できず、提案書作成が重荷となっている。

知財部門の「修正・ヒアリング」による破弊



不完全な提案書の補正にリソースを奪われ、本来注力すべき知財戦略や分析に時間を割けていない。



国内特許の約半数
(約80万件)が「休眠特許」
事業戦略と紐付かない出願が、活用され
ないまま埋もれている現状がある。

AIエージェントがもたらす革新



対話による
「暗黙知」の構造化
AIが断片的なデータから技術の
本質を抽出し、知財視点での不足情
報をインタラクティブに補完する。



出口(書類作成)ではなく
「入口(発掘)」の最適化
単なる自動作成ツールではなく、
開発現場に育む発明の種を蒔き
上げる「内発的プロセス」を支援。

事務処理から「戦略的知財活動」への転換
定型業務を削減し、IPランドスケープ分析や競合
牽制などの事業成長に直結する活動ヘシフト。



定型業務を削減し、IPランドスケープ分析や
競合牽制などの事業成長に直結する活動
ヘシフト。

